



シリーズ「がんばれどろんこちるどれん」最終号

ただいま野生児増殖中

今年度からスタートした「子どもの野生復帰大作戦」も1年目のプログラムを終了しました。今回は、中心事業である「自然体験学校」の指導者、竹野スノーケルセンター・ビクターセンター長の本庄四郎さんに、本シリーズを締めくくっていただきます。

《問合せ》生涯学習課



竹野スノーケルセンター・ビクターセンター長
本庄四郎さん

今年度の「自然体験学校」は市内各地の森や川、そして海辺を舞台にほぼ予定通りに実施することができました。

少し振り返ってみましょう。まず「天候」です。2日間にわたった開校式の初日は雨、翌日は晴れというまったく異なった展開になりました。しかし、雨の日の子どもたちは元気はつらつ、晴れの日の子どもは川にまで入って思いっきり遊んでいました。

その後、天候については、雨だから中止というのはおかし

いということになり、雨でも実施する方針が定まり、おかげで雨にも動じない気持ちで据わりました。カッパや長靴の扱いはもちろん、雨宿りのありがたさ、休憩場所を提供いただいた方々の温かい心にもふれることができました。

一方、大人カリキュラムでは、ほぼ毎回雨やみぞれの中の過酷な展開になりました。今後、地域のリーダーとして活躍していただくメンバーばかりなので厳しい実習はかえってインパクトがあったのかもしれない。

次に「食育のこと」です。スタッフには食育担当もいます。子どもたちは主におにぎりを持ってきますが、ほぼ毎回、地元ならではの食材を使ったみそ汁が登場しました。

三原味噌にたけのこ、山菜、キャベツ、大根、海藻、猪、鹿、ムラサキイガイ、ニギスの団子などで、「旬」を味わう味覚も育ってほしい願いがありました。

時間をかけてご飯をつくる。食べて片付ける。またお腹がすく。次はどうしよう。この繰り返しを他人任せではなく「自分の意志と筋肉」で解決していくことが子どもたちの「野生化」の鍵の1つだと思います。

四季の移り変わりの中で、豊岡の森、川、田んぼ、畑や海でたくさんの方が育ち、それを食べることで自分の命がつながるということを伝えたいのです。そして食べ物に関わるたくさんの方々の尊い役割を理解することも重要なことです。

個性たっぷりの子どもたちも大作戦を重ねるごとに互いに話ができるようになりました。ますます今後が楽しみです。ワクワクしています。

「子どもの野生復帰大作戦」は、今後もさまざまな事業を展開します。ぜひ一度、参加ください。

フィフティ・フィフティ システム

50 : 50

「学校での省エネ」効果あり！

昨年4月から市内の全小中学校で節電を実施してきました。その結果、4～12月の9カ月間の電気代が昨年度と比較して小学校では約190万円（5%）、中学校では約50万円（3%）減少しました。

削減に成功した電気代の半額は学校に還元（「フィフティ・フィフティシステム」という）しました。還元された学校では、努力の成果が実感できるように子どもたちが希望する物品を購入しました。経費削減に成功したことも大切ですが、それよりもっと大切なことは子どもたちの節電意識が高まったことです。

市内の小中学校では、省エネ意識が子どもたちにとって当たり前の生活習慣になることを目標に本事業を2年間継続して取り組みます。

《問合せ》教育総務課



▲清滝小学校では電気係が積極的に unnecessary な電気を消し、電気を節約する意識が校内に広まった

さまざまな取組み

- unnecessary な電気を消す
- 集会での呼びかけ
- 電気使用量グラフ・ポスターの掲示
- 電気製品未使用時はプラグを抜く
- P T Aへの節電依頼
- 省エネ講座の開催



さまざまな成果

- 児童・職員の節電意識が高まった
- 「もったいない」意識が育った
- 主体的に節電するようになった
- 子ども同士で注意するようになった
- 家族にも節電を呼びかけるようになった

ありがとう！

スポーツ団体が学校施設を利用した大人の皆さんにも節電に協力いただきました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。